



ノンゼロサム

Non-Zero Sum Game

ゼロサムとは、複数の参加者が存在する中で、それぞれの得点と失点の総和（＝サム）が、常にゼロであることをいう。例えば、ポケットに1000円持っていて、相手に500円あげれば自分の持ち分は500円減り、相手は500円増える。誰かが得をすれば、誰かが損をするのである。

ノンゼロサムとは、同じケースで相手に500円あげても、ポケットの元金1000円は減らない。いやむしろ増える！？ ええ、そんなことが！と思うかもしれないが、キャンドルサービスを例にとってみよう。灯を他者に分け与えても、元の灯火は減らない。むしろ周りをより明るく照らし出す。ノンゼロサムとは、誰も損をしない、Win-Winの関係、全員でハッピーになる関係性を創る知恵なのである。

著作権とディズニー（ゼロサム）

著作権や特許権は、発明者の知的財産を守るという名のもとに、企業の果てしない利益追求（ゼロサムゲーム）を容認しているのである。

1928年にミッキーマウスが初登場した。当初の保護期間は56年（1984年まで）であった。しかし米国は1976年にミッキーの保護期間を著作者の死後50年に変更（2003年まで延長）。そして再度1998年には、著作権法延長法が制定され2023年まで再延長された。

理由は、米国に多大な貢献をしているディズニー社を守るためというが、要は日本円で年間6兆円以上もの売り上げを出しているディズニー社からの税収をあてにしているからである（ゼロサム）。



ワクチン特許権の放棄（ノンゼロサム）

自国の利益を最優先してきた米国が、なんと新型コロナワクチン特許権放棄の支持を表明したのである。特許権がなくなれば、開発された技術がオープンになり、各国が自力でワクチンをつくることができる。ミッキーマウスとは違い、経済より人間の命を最優先にした米国の決断に拍手を送りたい。WHOはこれを「歴史的な決断だ」と称賛した。

トヨタ自動車の英断（ノンゼロサム）

2019年世界中の経済ニュースを賑わせた出来事がある。トヨタ自動車が20年以上にわたり開発してきた車両電動化技術の特許権、約2万4千件を無償提供することを発表したことである。素晴らしい技術を皆で共有することによって電動車の普及、CO₂の削減に貢献できると判断したからであった。



オープンシェア革命（ノンゼロサム）

勝つことが全てのプロの世界では、手の内をさらしたくないという考え（ゼロサム）がこれまでの常識。ところがダルビッシュ投手は、自分の武器である変化球の極意をインターネットで惜しげもなく公開する。

トップ選手が自らの技術をオープンにし、他人とシェアすることで全体のレベルアップを目指すのである。「自分のもっている技術を自分のものだけにしてしまうと、すくもったくない」とダルビッシュ投手は語る。

<事例 DVD>

米国がワクチン特許権を放棄を支持

クロ現「オープンシェア革命」2021/4/14

ダルビッシュ投手が！青学陸上部が！技術を共有する

逆転人生「宗教2世」、親に束縛された人生からの脱出

米映画「かごの中の瞳」All I See Is You

盲目の妻の自立は、果たして夫にとっては、...

歌・今井美樹「瞳がほほえむから」

円了のホームページ：www.enryo.jp

